



マーチィ's ROOM

マーチィに訊け！

まちづくりプレイヤー紹介

スポーツは、人と地域をつなぐ ～球都桐生プロジェクトから始まるまちづくり～

株式会社ノッティングヒル

我々は、「地方に“まさか”を仕組みで生み出す会社」を目指し、競技そのものではなく、スポーツの持つ「人と人、人と地域をつなぐ力」に着目し、その価値を生かした地域づくりに日々取り組んでいます。

スポーツの本当の価値は、勝敗や記録ではなく、人と人をつなぐ力にある。この考え方が、球都桐生プロジェクトをはじめとする、私たちのすべての活動の出発点になっています。

桐生市には、100年以上続く野球の歴史があります。その歴史は地域の資産として活かし、新たな人の流れや交流を生み出してこそ本当の価値になると考え、2022年4月に桐生市へ提案したのが、「球都桐生プロジェクト」です。

野球をきっかけに人が集まり、企業が関わり、子どもたちが夢を持ち、市民が地域に誇りを持てる。そんな未来を描き、桐生市にご理解をいただき、公民連携事業としてスタートしました。その後、「球都桐生の日」(9月10日)制定をはじめ、球都桐生歴史館や野球ラボの開設、様々なイベントの開催など、多くの企業や団体、市民の皆さんとともに取り組みを積み重ねてきました。しかし、私たちが本当につくりたかったものは、イベントでも施設でもありません。行政、企業、学校、地域メディア、市民が自然につながり、新しい挑戦が次々と生まれる「地域のプラットフォーム」です。

そこで培われたネットワークや仕組みは、野球だけでなく他のスポーツへも展開できますし、健康づくりや教育、文化、観光など、様々な分野へ発展させることもできます。

スポーツは目的ではなく、人をつなぎ、地域を育てるための入口なのです。

そして、その地域づくりの中心に置きたい価値観が「スポーツマンシップ」です。スポーツマンシップとは、勝敗を超えて、相手を尊重し、ルールを守り、仲間を信じ、挑戦する人を応援する姿勢です。私たちは、この価値観は競技の世界だけのものではなく、企業や学校、家庭、地域にも必要なものだと考え、「スポーツマンシップの入っているまち、桐生」を目指しています。

その象徴的な取り組みとして、今年9月には国内初となる「スポーツマンシップサミット」を桐生で開催しました。国民栄誉賞を受賞した高木美帆さんをはじめ、競技や立場を超えた多くの方々とともに、スポーツマンシップを地域文化として考える、新たな一歩となりました。多くの地域課題を抱える地方では、地域に暮らす一人ひとりが互いを尊重し、応援し合い、それぞれの立場で地域に関わっていくことが欠かせません。スポーツには、そのきっかけをつくる力があります。私たちが目指しているのは、「野球のまち」ではありません。スポーツマンシップが人をつなぎ、人が地域を育てるまちです。「スポーツマンシップの入っているまち、桐生」。その挑戦を、これからも行政、企業、市民の皆さんとともに、一歩ずつ積み重ねていきたいと思えます。



競技の枠を超えて人と人をつなぎコミュニティを活性化するツールとしてスポーツを活用



東京から桐生訪問の窓口となる東武線新桐生駅を野球場のように改装。東武鉄道を含め地域の多くの企業を巻き込み事業を推進



地域の企業もスポーツマンシップを積極的に活用し、「ビジネスパーソン」としての成長を目指す



最新の測定機器を導入した野球ラボを廃校となった桐生南高校跡の「KIRINAN BASE」に開設。怪我無く生涯に渡りスポーツを続ける環境作りを進める

